

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城東中学校区	校番 13	福山市立蔵王小学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月12日

## I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
---

## II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>中学校区で統一した育成する力(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)のもと、9年間を見据え児童・生徒の思考や単元の意義を協議し、子どもの学ぶ姿から授業を構成する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>自分の考えをまとめ、他者と協働し、課題を解決しようとする力が育ちつつある。</p> <p>自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。</p>	<p>育成する力(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 &lt;課題発見・解決力&gt;</li> <li>○根拠をもって相手を説得する力 &lt;論理的思考力・表現力&gt;</li> </ul> <p>倫理観</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自他を認め合い思いやる態度 &lt;協働性&gt;</li> <li>○自らの行動を律し、高まろうとする態度 &lt;自己指導力&gt;</li> </ul> <p>目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子</p> <p>中学校区で目指す児童・生徒の姿(達成基準)を系統的に4つのステージで捉え、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。</p> <p>自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育むスキルと倫理観を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。</p>
---	---	--	--

## III 自校

<p>ミッション</p> <p>主体的な学びを通し、自立し、自己と郷土の豊かな将来を創造する生徒を育てる。</p>	<p>育成する力(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p>	<p>課題発見・解決力</p>	<p>論理的思考力・表現力</p>	<p>協働性</p>	<p>自己指導力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心を持ちたくましく伸びる子</p>					
<p>現状</p> <p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自主的な活動に主体的に取り組むことによって、自己有用感が高まってきている。</li> <li>○自分の課題をもとに、家庭学習などを自己選択して取り組むことができる児童が増えてきている。</li> <li>○語彙力が少なく、書かれていることを正確に読み取ることに課題が見られる。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あたたかなつながりの中での学び合いをもとに、考えを交流し、お互いの考えを認め合える授業ができています。</li> <li>○教材研究を深め、子どものより深い学びへと誘う授業づくりを行う必要がある。</li> </ul>					
<p>めざす子ども像</p>	<p>低学年</p> <p>課題を見つけ、解決しようとしている。</p>	<p>相手の意見を最後まで聞き、自分の考えを持ち、相手に伝えることができる。</p>	<p>友だちの良いところに気付いている。</p>	<p>様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやり遂げようとしている。</p>	
<p>めざす子ども像</p>	<p>中学年</p> <p>課題を見つけ、既習事項や経験をもとに解決しようとしている。</p>	<p>相手の意見を取り入れながら、根拠を明らかにして自分の考えを伝えることができる。</p>	<p>自分や友達の良さに気付き、お互いに認め合っている。</p>	<p>自らの行動や学びが適切であるか振り返りながら、より良い生き方を考え創り上げようとしている。</p>	
<p>めざす子ども像</p>	<p>高学年</p> <p>課題を見つけ、見通しを持って仲間と共に解決しようとしている。</p>	<p>自分の意見と相手の意見を比べながら聞き、根拠を明らかにして自分の考えを、説明することができる。</p>	<p>相手意識を持ち、積極的に人間関係を築こうとしている。</p>	<p>様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやり遂げようとしている。</p>	
<p>研究</p>	<p>テーマ</p> <p>楽しく学び、自分の成長を実感できる授業の創造</p>	<p>子どもの楽しく豊かな学びを実現し、成長を実感できるよう、教材研究の充実を図り、多様な学びを設定する。</p>			
<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究をもとに、より深い学びにつながる授業</li> <li>・子どもが自己選択できる多様な学びの保障</li> <li>・短期スパンでの評価をもとに改善する授業づくり</li> </ul>				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立蔵王小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
6	自ら考え学ぶ 授業づくりの 推進	★	継 続	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究を中心 に据え、多 様な学びを工 夫し、自分の 成長を実感で きる授業づく り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員どうして教材研究を 行う時間をもち、定期的 に授業の実践交流を行 う。</li> <li>1学期に1単元以上のフ レームリーディングの手 法を用いた授業を行う。</li> <li>児童が自己選択・自己決定 できる自主学習週間(チ ャレンジウィーク)とチ ャレンジテストを実施す る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査の結 果において、学力 が伸びた児童が8 5%以上。</li> <li>各チャレンジテ ストで、自己目標を 超えた児童が 85%以上。</li> </ul>								
3	自己有用感を 育む居場所づ くりの推進		継 続	<ul style="list-style-type: none"> <li>たてわり班活 動を基盤とし た特別活動の 充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会、縦割り班委員会 等を中心に、自分たちで 企画、実践、振り返りを行 い、自己有用感を育む。</li> <li>体力テストの成果と課 題をふまえ、定期的に 体力測定週間を設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで企画、実 践、振り返りをする ことができると 評価する児童が 80%以上</li> <li>自分の設定した体 力づくり目標を達 成した児童が9 0%以上</li> </ul>								
7	保護者・地域 に信頼される 学校づくりの 推進		継 続	<ul style="list-style-type: none"> <li>やりがいの感 じられる働き 方改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の教材研究を交 流し、子どもともに 楽しいと感じられる授 業づくりを行う。</li> <li>教職員が自らの挑戦 を企画・実践する場を 保障する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やりがいがある」 と感じている教職 員が90%以上</li> </ul>								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。